

インドネシア政策金利引下げ(2012年2月9日発表)

概要と今後の見通し



インドネシア中央銀行は2月9日の金融政策決定会合において、政策金利の引下げを決定しました。世界経済の減速が懸念される中、インドネシアの経済成長に与える悪影響を軽減することを目的としています。

今回の利下げの概要： 景気減速を防ぎ経済成長を維持する目的

インドネシア中央銀行は2月9日の金融政策決定会合で、政策金利を6.0%から0.25%引下げ、5.75%としました。2011年11月の金融政策決定会合で6.5%から6.0%に引下げて以来、3ヵ月ぶりの利下げとなりました。

インドネシアのインフレ指標となる消費者物価指数(CPI)上昇率が低下傾向にある中、欧米の債務問題などによるグローバルな景気減速懸念がインドネシア経済に与える悪影響を軽減することを目的に利下げに踏切ったものとされています。

CPI上昇率は、2011年7月以降、前年比4%台で推移し、12月には同3.79%、今年に入ってから1月の同3.65%と低水準で推移しています。

また、自国通貨であるインドネシアルピアの下落も一段落したため、利下げによるルピア急落の懸念もないと判断したとみられています。

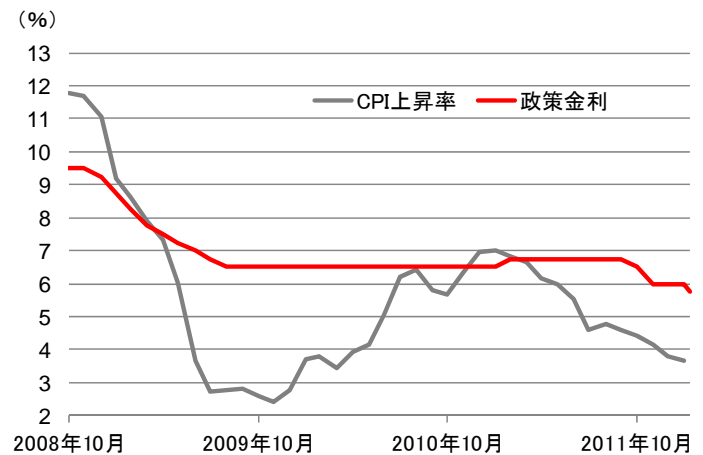
今後も注目されるインドネシア経済：

世界経済が減速する中、インドネシア国債は複数の格付け会社から格上げされてきました。昨年12月のフィッチ・レーティングスに続き、今年の1月にムーディーズが投資適格に格上げしました。

また、2月6日に発表されたインドネシアの実質国内総生産(GDP)成長率は、2011年通年で前年比+6.5%と、1996年以来の高成長となりました。

当社グループでは、同国の健全な財政状況、低水準の対外債務、堅調な国内需要、輸出依存度が低いこと、設備投資の急速な伸びなどといった良好なファンダメンタルズに注目しており、インドネシア経済の成長性に関しては、引続き前向きな見通しを維持しています。

(図1)インドネシアの政策金利とCPI上昇率(対前年比)の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきPCAアセット・マネジメント作成。
期間: 2008年10月~2012年2月、CPI上昇率(対前年比)は2012年1月まで。

- ・当資料は情報提供のみを目的とするもので、特定の金融商品等の販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。
- ・当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- ・当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

PCAアセット・マネジメント株式会社は、世界有数の金融サービスグループを展開する英国ブルーデンシャル社(以下「最終親会社」)の間接子会社で、日本における資産運用会社です。最終親会社は160年以上の歴史を有し、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。資産運用事業はアジアでは10のマーケットに及び、最終親会社の運用資産は2011年6月30日現在約3,495億ポンド(約45兆円、1ポンド=128.76円)に上ります。なお、最終親会社およびPCAアセット・マネジメント株式会社は、主に米国で事業を展開しているプルデンシャル・ファイナンシャル社とはなんら関係がありません。



PCA アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号
加入協会: 社団法人 投資信託協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会
ホームページアドレス www.pcaasset.co.jp

120210(05)